

私と片付け

片岡 靈 恵

このテーマは、私にはあまりびったりしないと思いがら、「幼児教育の中の片付けに限定しない広い意味で」ということなので、何か考えて見る約束をしてみましたが、やはり、自分の狭い経験領域に止まってしまうそうです。

ひとり暮しをしていますと、散らかす人もない代りに、片付けてくれる人もないので、朝あわてて出かけると帰った時大変です。その時、来客があると、外に待っていただいて、片付けるというようなことが、よくあります。現在は、間数がふえてましになりましたが、それでも、お客様を迎える前は、大いそがし、怠け者の節句ばたらきとはこのことだと苦笑します。七人の小人でなくても、一人の小

人でも来てくれないかしらと思ったりするのです。若いころは、友の会で、寝る前の家、起き立ての家から、ポロ山くずしなどを教えられて一生懸命やったのですが、このころはさっぱりで、研究室にもまた、資料ならぬ死料が、みるみるたまっていきます。頭の中のひき出しの整頓も、おして知るべしというところでしょう。戦中派は、何でもため込むといわれますが、身につけてしまった習慣や生活はなかなか変わりません、整理整頓して、いつでも使えるようになつていけば、物のいのちが本当に生かされるのではないでしょうかと自分で自分にいいきかせております。

「お片付けッチャンチャン」と、歌うように当番の子どもがふれまわると、自由遊びをしている子どもたちが、「あ

